

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25463363

研究課題名(和文) 遺伝専門看護師の実践力の明確化と遺伝専門看護師教育課程の構築

研究課題名(英文) Clarification of practical skills of genetics certified nurse specialist and construction of a curriculum of genetics certified nurse specialist

研究代表者

横山 寛子 (YOKOYAMA, Hiroko)

東海大学・健康科学部・教授

研究者番号：30143150

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、遺伝看護専門看護師(GCNS)が質の高い看護の提供ができるように、その教育課程の構築を図ることが目的である。看護基礎教育における遺伝学の教育についての調査では、遺伝学についての開講は未だ低く、その科目を教授する教員の有無が大きく関与していた。さらにその詳細を確認するためにシラバスを分析した調査では、遺伝学を開講していた大学は33%で、その科目設定は選択科目での開講が57%であった。このことから、看護基礎教育の上に積みあげるGCNSの教育は、遺伝学の知識の教授が重要であった。

研究成果の概要(英文)：The objective of this study is to establish the curriculum for genetics certified nurse specialist so that they can provide high quality nursing care. In the survey on genetics education in basic nursing education, the number of universities who offered a course on genetics still remained small, and it largely depended on whether there was a teacher who taught the course in question. Furthermore, in the survey to analyze syllabuses in order to confirm those details, 33% of universities offered a course on genetics and 57% among them set the course as an elective. For this reason, it was important to teach the knowledge of genetics for the education of GCNS which was accumulated on basic nursing education.

研究分野：遺伝看護

キーワード：遺伝看護 遺伝看護専門看護師 遺伝専門看護師教育課程 遺伝看護学 基礎教育課程

1. 研究開始当初の背景

1990年より始まったヒトゲノムプロジェクトによる研究は、遺伝医療に急速にシフトし1999年の信州大学医学部附属病院の遺伝子診療部の開設を皮切りに、現在150以上の遺伝医療相談部門が設置され、遺伝診療部門連絡協議会を中心に遺伝医療の充実に向けた活動が行われている。この遺伝医療にとって重要となるのがクライアントへのカウンセリングであるが、日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセラー学会および日本遺伝看護学会を中心として、そのカウンセリングを行う医療職の教育についての検討が行われてきている。また、2011年に改定された「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」の中でも、遺伝相談に関わる専門スタッフについては、医師だけではなく、適切に遺伝医療を実施できるスタッフの養成とその体制づくりが重要であること適切な遺伝医療を実施できる体制適切な遺伝医療を実施できる体制示されている。

欧米で始まった遺伝看護学を基に、我が国の遺伝医療の進歩に向けて看護職としても遺伝医療への参画が必要と考え、1999年より遺伝看護を専門とする研究会を立ち上げ、2002年より「クライアントにより質の高い遺伝に関する看護の提供が必要であるとの見解」により学会としての活動を行ってきた。本研究グループも、1999年より、科学研究費補助を受け遺伝看護学の教育モデルの検討、あるいは遺伝医療における看護職の機能およびそのネットワークについての調査・研究を行ってきた。また、本学大学院では、すでに臨地実践看護学系の中に遺伝看護学の専攻分野をいち早く開設し、その教育を実施している。こうした経過の中、日本看護系大学協議会より、2012年3月に専門看護師教育課程の遺伝看護分野の教育課程の特定についての承認を得たことから、遺伝専門看護師教育が本格的に行われることとなる。すでに有森らが、「看護職に求められる遺伝看護実践力 一般看護師と遺伝専門看護師の比較」の研究において、その実践能力について明らかにしている。しかし、本研究チームが実施した遺伝診療部門の看護職の関わりの多くは、診療部門の専任である者は14.2%と少なく、さらに相談業務を優先して行える看護職はその内の12.2%であったことから、理想と現実の相違も大きい部分があると考えられる。したがって、専門看護師教育課程の開始に合わせ、その教育内容の充実を図るためにも、基礎看護教育における「遺伝に関する教育内容の検討」、遺伝専門看護師教育課程における「遺伝看護教育内容の検討」を行う必要があると考えた。さらに、遺伝専門看護師に必要な看護実践力として、本件研究を行いたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の当初の目的は以下の通りである。

1) 基礎看護教育における「遺伝学および遺伝看護学」に関する教育の実態を把握し、大学院における遺伝専門看護師の教育内容を検討すること。

2) 遺伝専門看護師の実践能力の明確化と専門遺伝看護教育課程の構築を図ること。

3. 研究方法

1) 基礎看護教育における「遺伝学」および「遺伝看護学」の教育に関する基礎的調査は、2段階に分けて、その実態の把握を行った。<第1段階>。

(1) 調査方法

調査対象：全国看護系大学216校を対象に調査用紙を送付・回収した。

(2) 調査期間：2013年4月～2014年3月

(3) 分析方法：量的分析を以下の視点で行った。

基礎看護教育課程における遺伝学および遺伝学に類似する科目開講の有無とその単位数および必修・選択別状況

基礎看護教育課程における遺伝看護学の開講の有無とその単位数および必修・選択別状況

遺伝学および遺伝看護学の科目担当の所属状況

今後の遺伝学および遺伝看護学開講に関する認識など。

<第2段階>

(1) 調査方法

調査対象：全国看護系大学のうちホームページ上でシラバスの閲覧が可能であった149校を対象とした。

(2) 研究期間：2015年4月～2016年12月

(3) 分析方法：基礎教育科目を含む卒業修得に必要な必修科目および選択科目の全てのシラバスの閲覧を行い、キーワードを設定して内容の確認を行い、量的分析を行った。

2) 大学院教育における遺伝専門看護師の教育内容の検討について

大学院での遺伝専門看護師教育については、当初の目標では遺伝専門看護師の実践能力の明確化の調査を行った後に実施する予定であったが、遺伝専門看護師教育課程の申請を2014年に行う運びとなったことから、所属する大学院のシラバスの検討を行った。

(1) 研究方法

他領域の専門看護師教育課程・認定看護師の教育内容に関するシラバスの収集および検討を行い、既存の遺伝看護領域のシラバスの検討を行った。

(2) 研究期間：2013年4月～8月

4. 研究成果

1) 基礎看護教育科目における「遺伝学」および「遺伝看護学」の教育に関する基礎的調査 - その1 -

(1) 調査対象の背景

204校の看護系大学を対象として、調査用紙を配布し、103校から回答(回収率50.5%)を得られた。対象の設置主体は、国公立大学が48%、私立大学が52%であった。

(2)調査結果

「遺伝学」の開講状況

基礎看護教育課程における遺伝学および遺伝学に類似する科目の単独開講は、32%であり、うち17%が必修科目として開講していた。「遺伝学」開講と学部・学科の開設年数についての関連については、その関係性は認められなかった。また、設置主体と「遺伝学」の関係性については、国公立大学にその開講が多い傾向が見られたが、有意差はなかった。

「遺伝看護学」の開講状況

基礎看護教育課程における「遺伝看護学」の開講は、全体の8%でありそのうち2施設が必修科目として開講していた。その設置主体については、私立大学5校であった。

開講科目の単位数

開講科目の単位数は、表1に示す通り、「遺伝学」及び「遺伝看護学」の単位数は、半数以上が1単位の開講科目であった。

単位数	遺伝学(n)	遺伝看護学(n)
1単位	21	8
2単位	11	0
4単位	1	0
計	33	8

開講科目を担当する教員の所属

遺伝関連科目を担当する教員の所属は、表2に示すように学部・学科内専任が担当している施設が70%であった。「遺伝看護学」の開講は、3施設は非常勤教員での担当となっていた。

表2 遺伝関連科目を担当する教員の所属(施設数)

	遺伝学(n)	遺伝看護学(n)
学部・学科内専任	23	5
学部外専任	2	0
非常勤	7	3
無回答	1	8
計	33	8

遺伝関連科目の開講に関する認識

「遺伝学」および「遺伝看護学」の今後の開講に関する認識については、その必要性を認めているとの回答をした施設は26%にとどまり、開講の必要性はないとの回答の施設も24%あった。

2) 基礎看護教育科目における「遺伝学」および「遺伝看護学」の教育に関する基礎的調査 - その2 -

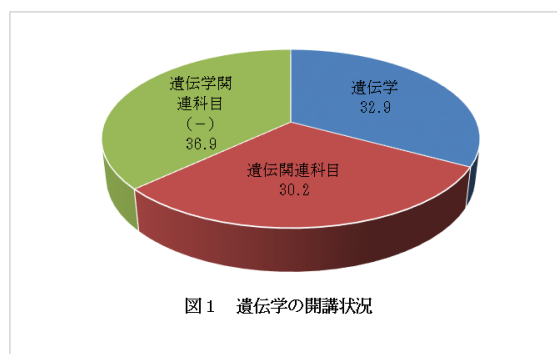
(1)調査対象の背景

調査対象施設の設置主体は、国立32校、県立22校、公立8校、私立87校の計149校で、そのうち医学部を併設している大医学は30%であった。

(2)基礎看護学教育における「遺伝学」および「遺伝看護学」についての教授状況

「遺伝学」科目開講状況

「遺伝学」についてはシラパスの内容から「遺伝学・遺伝看護学」の開講に関しては、開講コマ数の3分の2以上で展開している科目とし、3分の1以上で3分の2以下の開講に関しては、「遺伝学関連科目」とした。「遺伝学」の開講状況に関しては、図1の通りであった。



「遺伝学・遺伝看護学」についての開講は、49校(32.9%)であった。その科目名は以下の表2に示すように、「遺伝」という言葉を含むものが63.3%と半数を超えていた。中でも注目なのが、「遺伝看護学(論)」としての科目開講を4校が行っていたが、いずれも1単位の選択科目での開講であった。遺伝の基礎知識に関しては、基礎科目としての開講を行っている大学も多く、「生命科学」「生物学」「分子・細胞生物学などの開講科目がみられた。

さらに、その科目の設定は必修科目が43.9%で、単位数は1単位8回あるいは15

表3 遺伝学に関する開講科目

科目名	学校数
(臨牀・ヒト・基礎) 遺伝学	18
人類遺伝学	3
遺伝情報学	2
遺伝看護学(論)	4
遺伝と遺伝カウンセリング	2
遺伝免疫学	1
遺伝と病気	1
生命(基礎)科学	7
生物学(基礎・入門)	5
細胞生物学・分子細胞生物学	5
人間発生・発達論	1
計	49

回、2単位15回あるいは30回と様々であったが、最も多かったのは、選択科目の1単位8回での開講であった。

遺伝に関連する教育内容の詳細について15項目(DNA・核酸、細胞構造、染色体、染色体異常、発生、遺伝・遺伝子、遺伝形式、遺伝子操作、遺伝子診断・遺伝子異常、遺伝子治療、遺伝と薬剤・薬理遺伝学、遺伝病・遺伝性疾患、先天異常・奇形、出生前診断、遺伝カウンセリング、遺伝相談)のキーワードを設定し、全ての開講科目(選択科目も含む)の内容の詳細について確認を行った。

DNA、遺伝子、染色体、遺伝形式、遺伝性疾患、先天異常については、解剖学、病理・病態学などの専門基礎科目の中で触れられていることが多かった。

看護専門科目の中での遺伝に関する項目を多く教授していた科目は、「母性看護学」と「小児看護学」であった。「母性看護学」では「出生前診断」「染色体異常」についての項目の教授が多かった。「小児看護学」では「先天異常・奇形」についての項目を多く教授していた。しかし、「遺伝病・遺伝性疾患」についての項目に関しては、成人看護学での教授は極めて少なかった。

2) 大学院教育における遺伝専門看護師の教育内容の検討について

上記の研究成果を踏まえて、遺伝の基礎知識や遺伝性疾患の基礎を重視すると共に、遺伝カウンセリングや遺伝における家族支援に重要とする家族看護を含めて以下のような科目構成とした。

遺伝基礎科学1・2、カウンセリング特論、遺伝カウンセリング特論、家族看護学、遺伝看護特論、遺伝看護援助論1・2、医療倫理、遺伝看護実習1・2

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

辻 恵子、横山 寛子、森屋 宏美、溝口 満子、遺伝看護基礎教育課程における遺伝学・遺伝看護学教育の実態調査、日本遺伝看護学会誌、Vol.12、No 2、2014.3、pp. 54 - 59

〔学会発表〕(計1件)

横山 寛子、これからの遺伝看護の専門的役割について考える、日本遺伝看護学会第11回学術大会、2013.9

〔図書〕(計1件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横山 寛子 (YOKOYAMA, Hiroko)
東海大学・健康科学部・教授
研究者番号：30143150

(2) 研究分担者

石井 美里 (ISHII, Misato)
東海大学・健康科学部・准教授
研究者番号：10276660

辻 恵子 (TSUJI, Keiko)
慶応義塾大学・看護医療学部・准教授
研究者番号：30338206

森屋 宏美 (MORIYA, Hiromi)
東海大学・健康科学部・講師
研究者番号：80631845

溝口 満子 (MIZOGUCHI, Michiko)
日本赤十字秋田大学・看護学部・教授
研究者番号：40149430
(平成26年度まで)